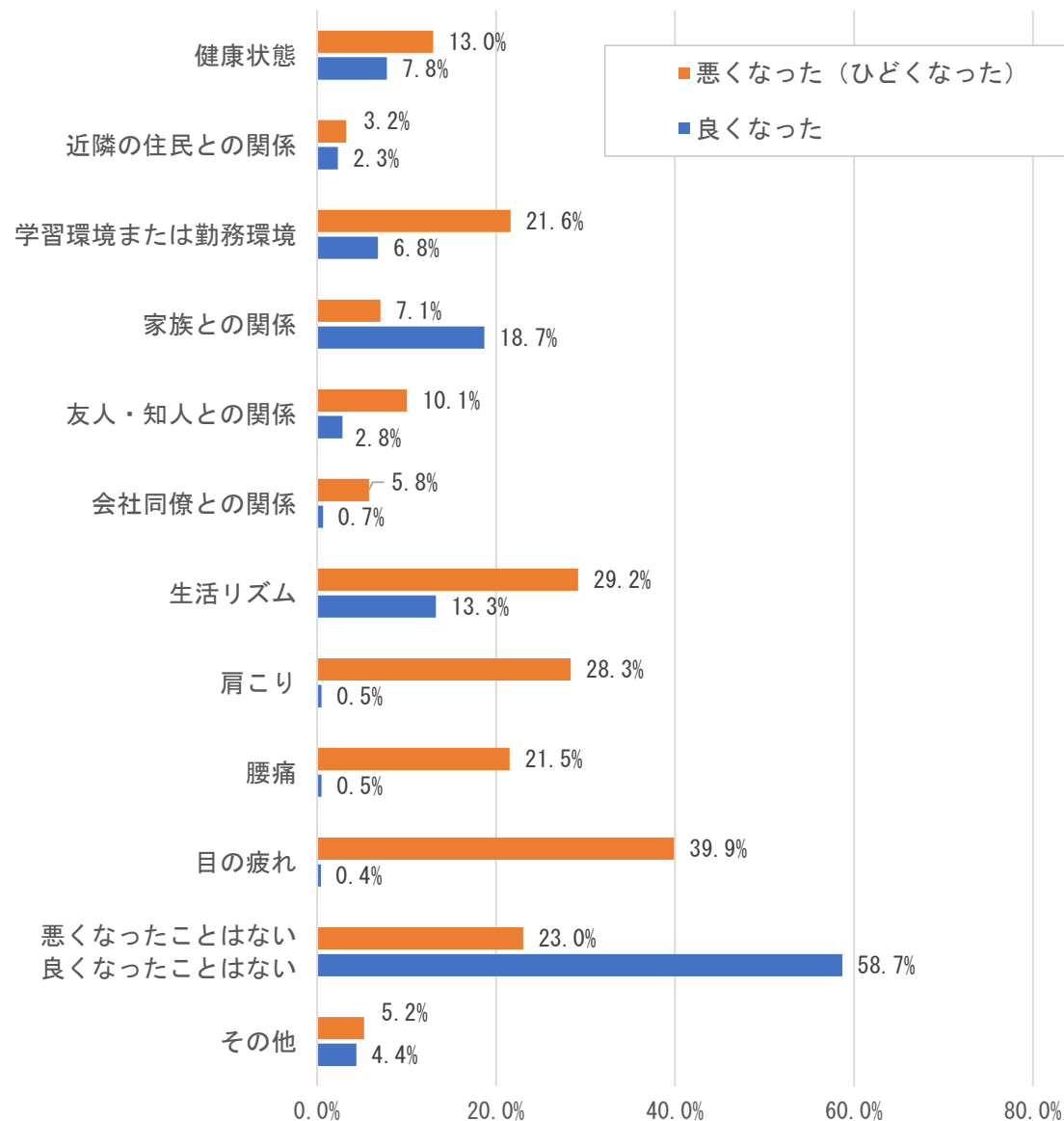


「コロナ禍における生活様式の変化に関するWEBアンケート」の結果について

青葉区では、区内在住、在勤、在学の皆さまの生活が、コロナ禍でどのように変わったのか、またその変化がもたらす影響についてアンケート調査を実施しましたので、主な結果をご報告します。

実施期間：令和3年5月25日から6月30日まで 回答数：1,203
 対象：青葉区在住、在勤、在学の方
 回答方法：WEB回答(横浜市電子申請システム)

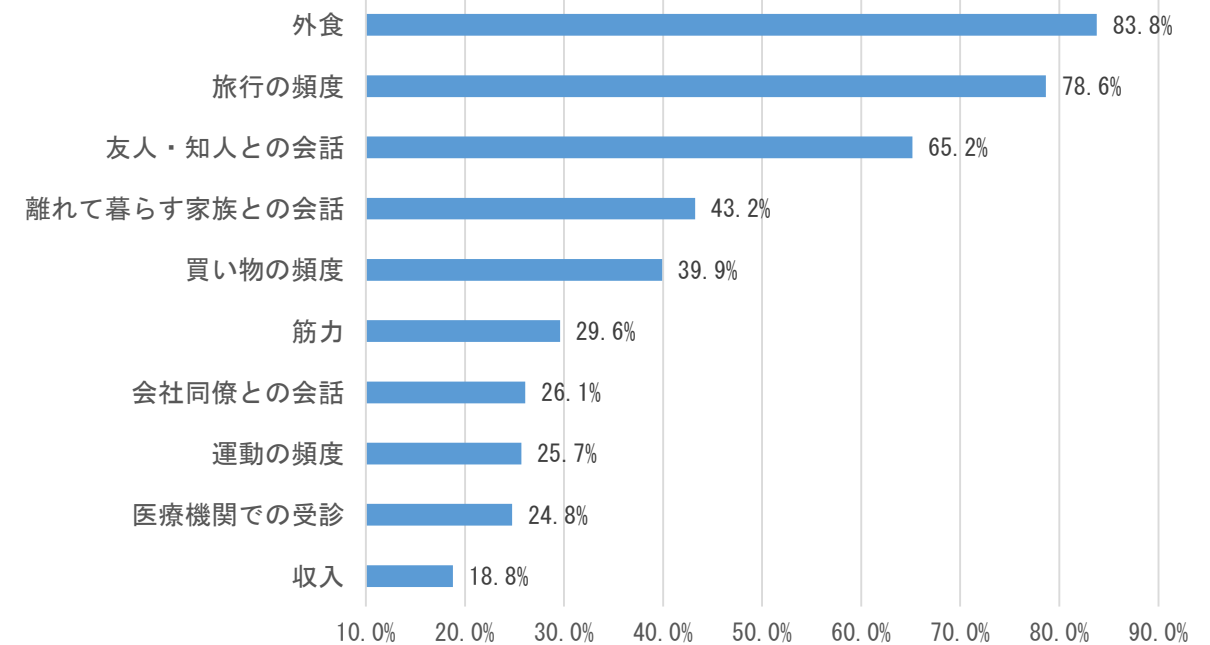
1 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で悪くなった／良くなったことはありますか



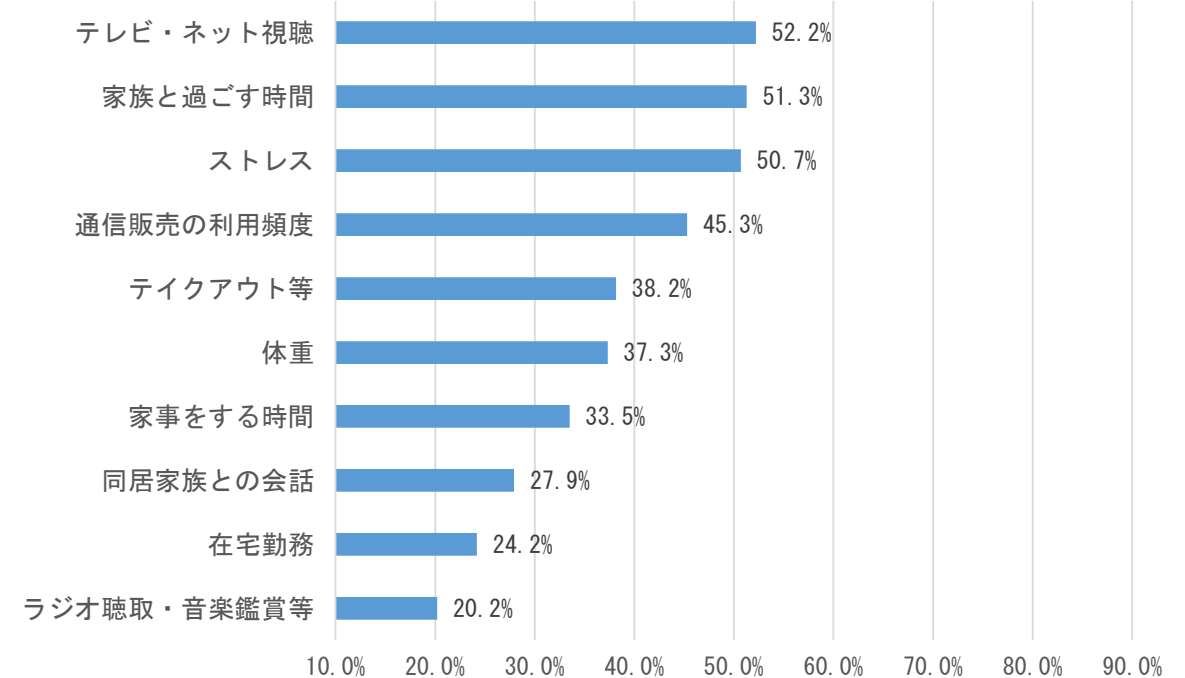
悪くなったことについては、上位から目の疲れ、生活リズム、肩こりとなった。
 良くなったことについては、ないと答えた人が最も多く、次いで家族との関係となった。

2 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で減ったこと／増えたことはありますか

【減ったこと上位10件】



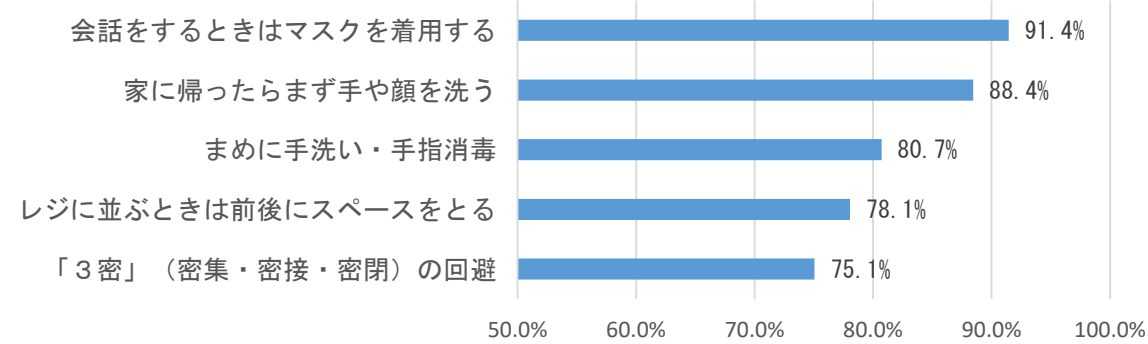
【増えたこと上位10件】



減ったことは、外食、旅行、友人・知人との会話と、外出自粛の直接的な影響が上位となった。
 また、増えたことについては、テレビ・インターネット視聴、家族と過ごす時間、ストレスが上位となった。

3 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実践していることは何ですか

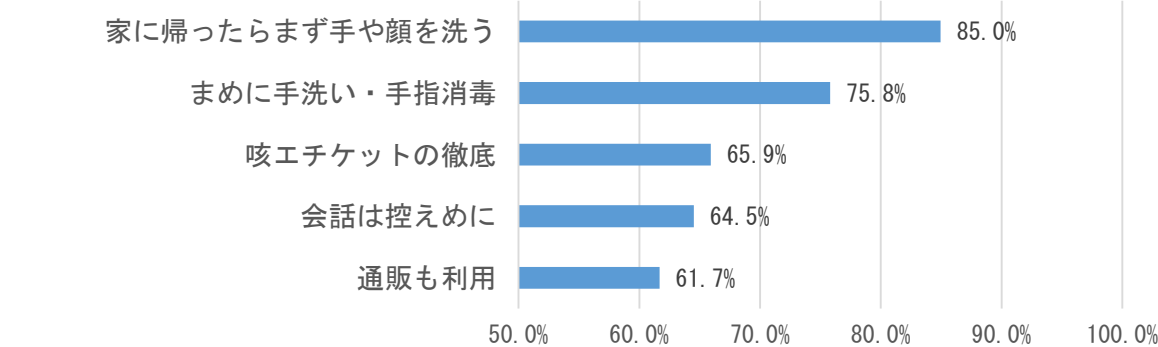
【実践していること上位5件】



マスク着用をはじめ、手洗い・手指消毒、身体的距離の確保が浸透していることが分かった。

4 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のうち、収束後も継続していくべきと考えることは何ですか

【継続すべきと考えること上位5件】



手洗い・手指消毒については、コロナ禍収束後も継続すべきと考える人が多いことが分かった。

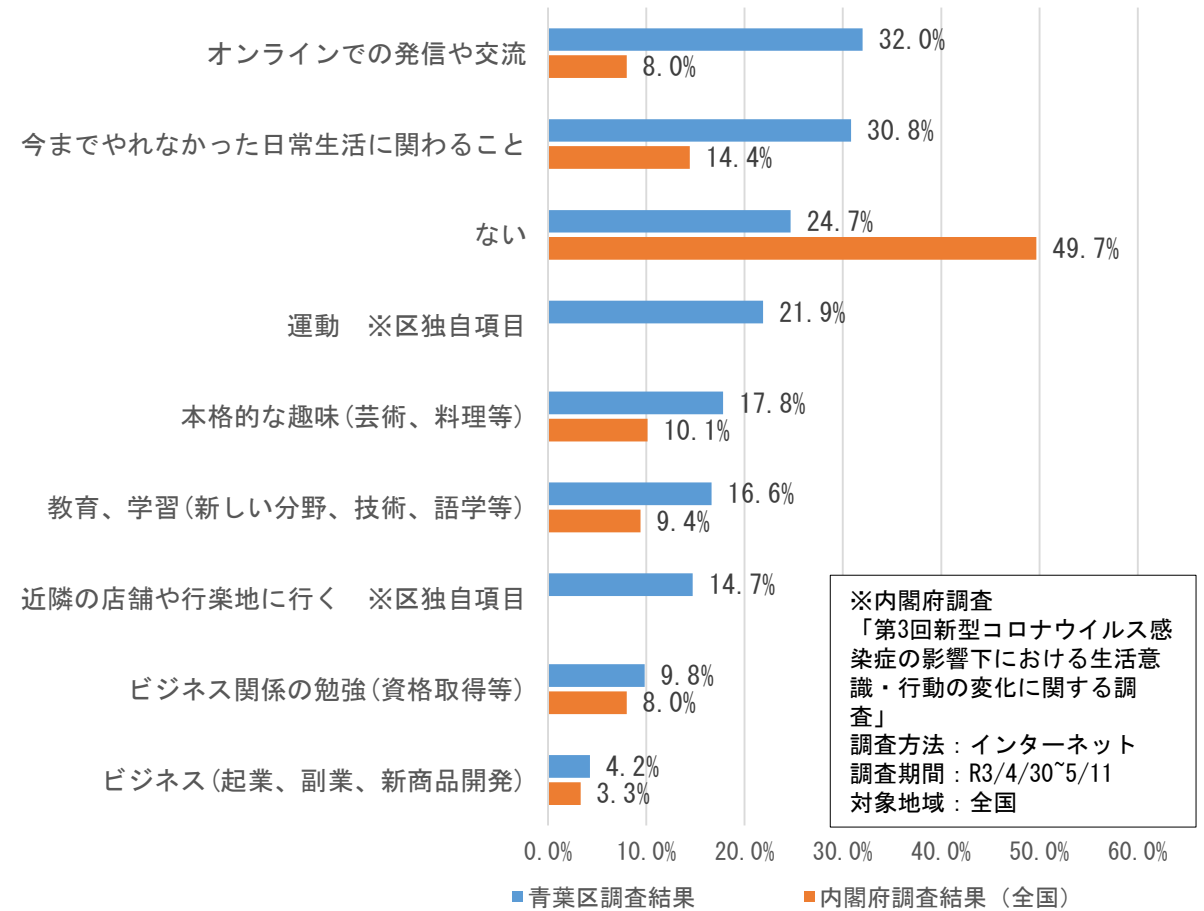
5 「感染症拡大防止のため実践している」－「収束後も継続すべきと考える」の差が大きい項目 上位5件

	差
会話をするときにはマスクを着用する	49.9%
県境をまたいだ移動は控える	40.5%
レジに並ぶときは前後にスペースをとる	31.7%
「3密」（密集・密接・密閉）の回避	25.9%
身体的距離（最低1m）の確保	20.0%

「実践している」と「収束後も継続すべきと考える」の差が大きい項目は、コロナ禍だからこそ実施している項目であると考えられる。このため、マスク着用、県境をまたいだ移動を控えること、身体的距離の確保などは、コロナ禍収束後はやめたい、またはやめてもよいと考える人が多いものと考えられる。

6 今回の感染影響下において、新たに挑戦したり、取り組んだりしたことはありますか

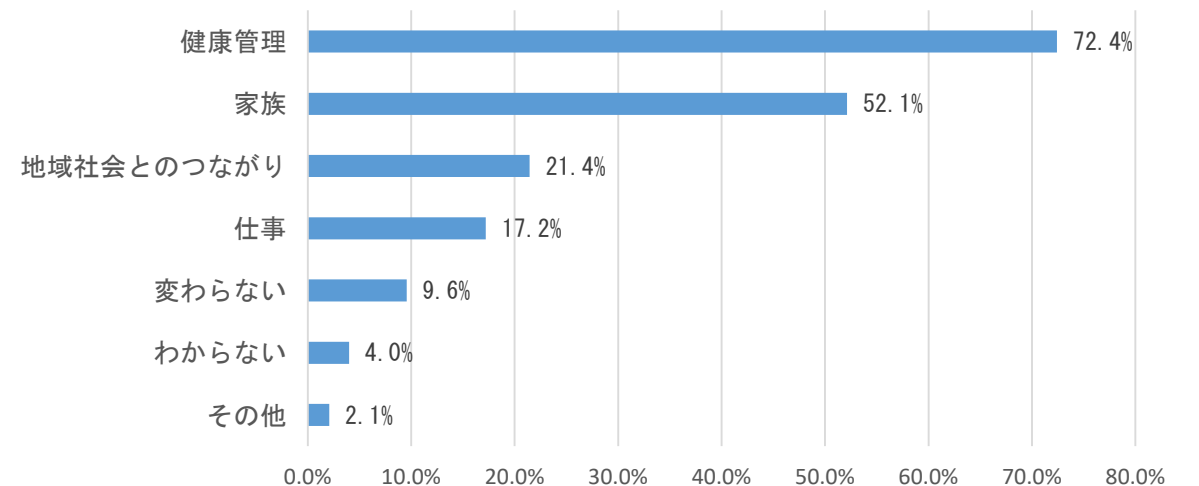
【内閣府調査（※）との比較】



※内閣府調査
「第3回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」
調査方法：インターネット
調査期間：R3/4/30~5/11
対象地域：全国

内閣府調査と比較して、オンラインでの発信や交流をはじめ、ほぼすべての項目で青葉区が内閣府調査結果（全国）を上回った。（「特に挑戦したり取り組んだりしたことはない」という項目のみ、内閣府調査結果が青葉区を上回った。）

7 感染拡大前に比べて、重要性を意識するようになったものはありますか



健康管理、家族が他の項目と比べて大幅に高い結果となった。